

2026年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

2026年1月30日

フィード・ワン株式会社

東証プライム 証券コード2060

飼料で食の未来を創り、命を支え、笑顔を届ける

連結決算概要

価格改定ギャップ

- 畜産飼料業界では、原料価格の変動(穀物相場・為替・海上運賃の変動に起因)に応じ、四半期毎に販売価格を改定します
- ただし、急激な原料価格の変動等により、予想原価と実際原価の間にギャップが生じ、損益が上下することがあります
- 多くの場合、翌四半期の価格改定でこのギャップは適正化されるため、年間を通してみると利益は平準化される傾向にあります

販売数量の減少や飼料販売価格の低下により前年同期比減収も、採算管理の徹底が奏功し増益

(百万円、%)

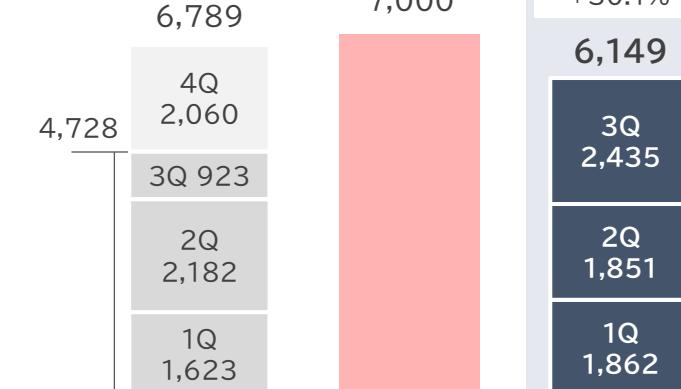
	2025.3期		2026.3期	
	3Q	3Q	前年同期比	通期予想 進捗率 (以下、進捗率)
売上高	225,521	219,072	▲2.9%	70.4%
売上原価	201,804	193,932	▲3.9%	—
売上総利益	23,716	25,139	+6.0%	74.4%
販管費	19,444	19,507	+0.3%	—
営業利益	4,271	5,632	+31.8%	82.8%
経常利益	4,728	6,149	+30.1%	87.9%
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,711	4,585	+23.5%	88.2%

経常利益

6,149 百万円

進捗率
88%

単位:百万円



実績
2025年3月期

通期予想
2026年3月期

○ 前年同期対比(10-12月)

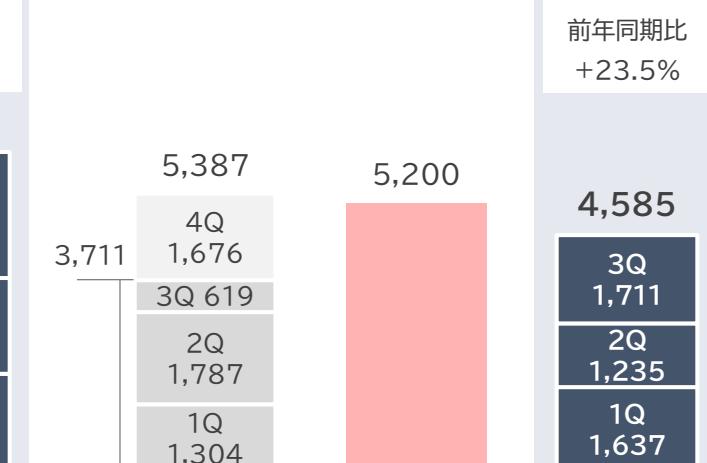
前期は、畜産飼料において販売数量拡大を最優先とするなかで、価格改定ギャップ(スライド右上参照)等により粗利が悪化したが、今期は採算も意識した適正な価格設定や不採算販売の見直し等により増益

最終利益

4,585 百万円

進捗率
88%

単位:百万円



実績
2025年3月期

通期予想
2026年3月期

前年同期比
+23.5%

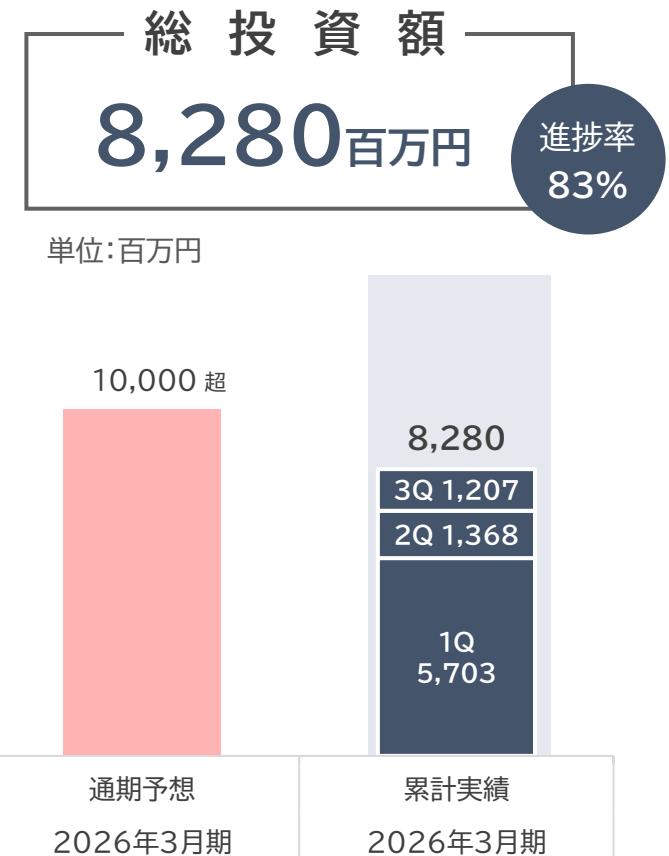
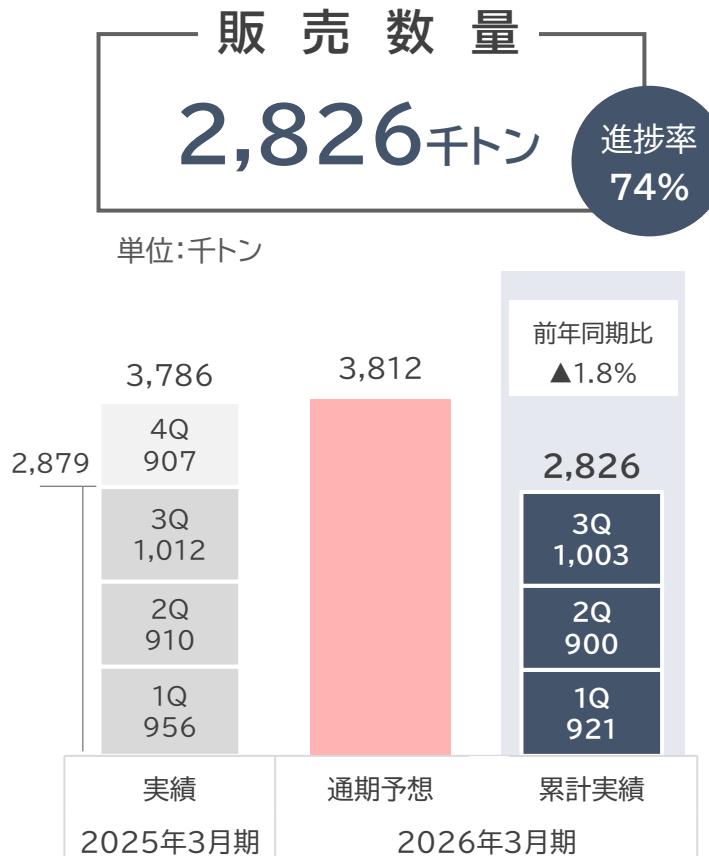
経営指標の進捗状況

経営指標：販売数量、EBITDA、ROE、ROIC、総投資額

※ROE、ROICは期末のみ掲載



販売数量は回復基調も、上期影響が残り前年同期比で減少。投資は計画通り進捗中



前年同期対比(10-12月)

水産飼料は増加も、畜産飼料は上期影響(暑熱や家畜疾病による頭羽数の減少)が残り減少



飼料事業の粗利増加を主要因に増加
減価償却費は前年同期比 + 221百万円

※EBITDA: 経常利益+支払利息-受取利息+減価償却費及びのれん償却費

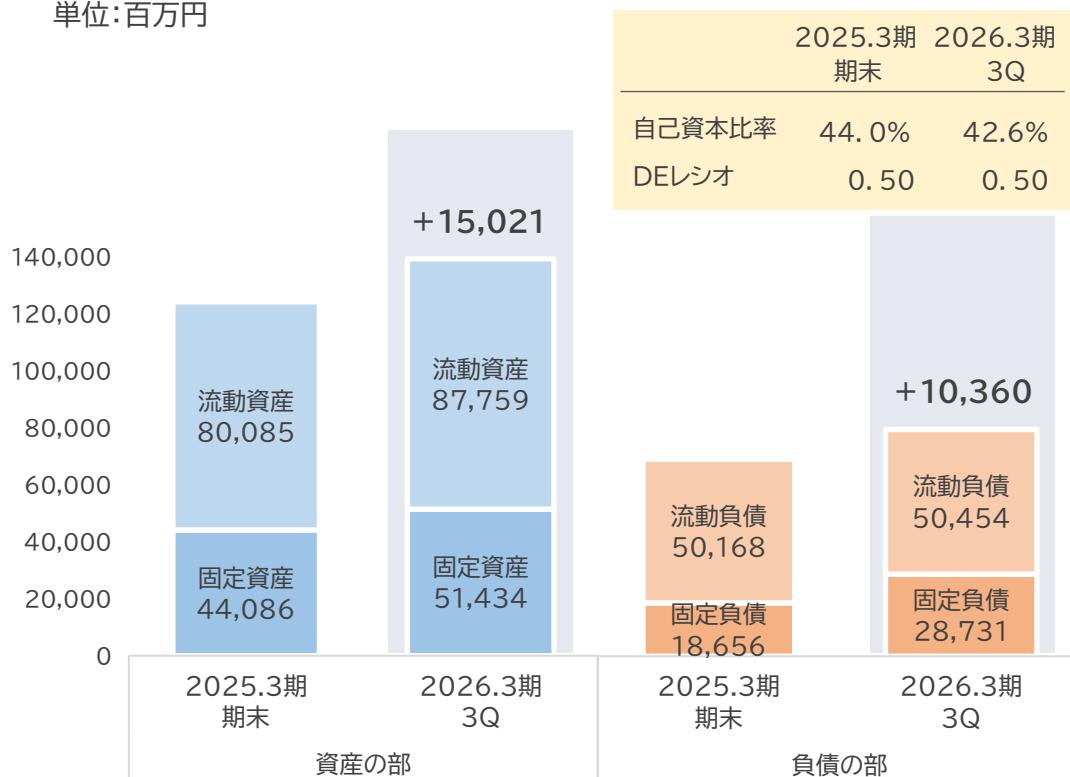


水産新工場の建設に関わる投資を中心に、更新投資も着実に実行

月末休日影響により一時的に総資産増加。利益の積上げ等により創出した営業CFで設備投資資金を貯う

連結貸借対照表

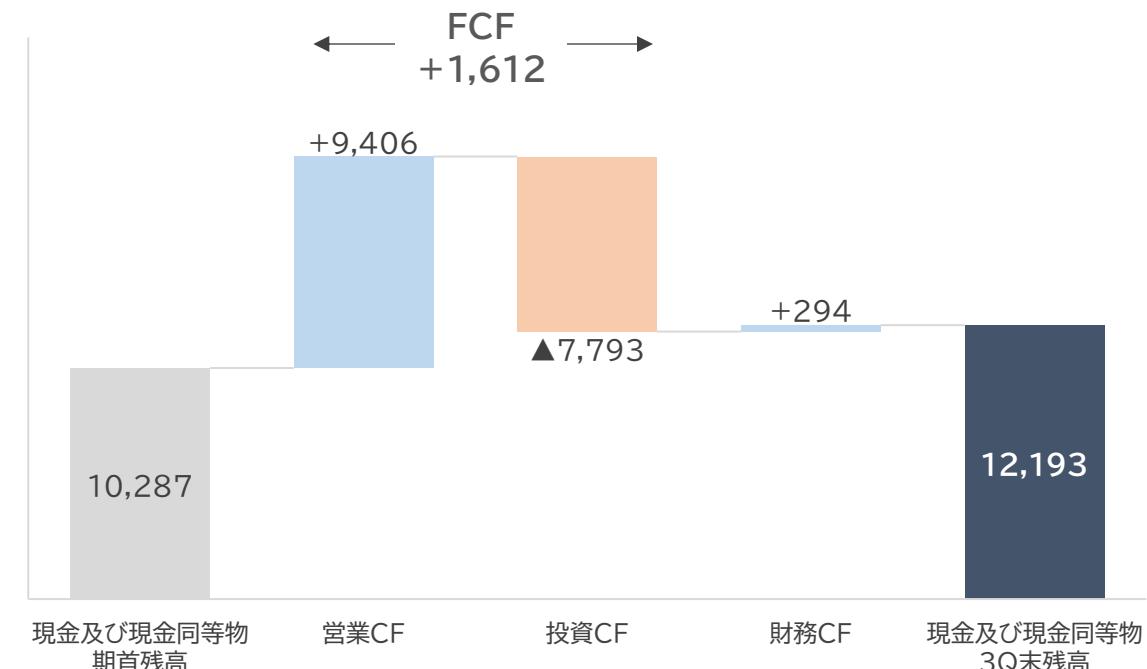
単位:百万円



連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

■ 増加 ■ 減少



水産新工場建設に関する固定資産が増加(建設仮勘定)

上期に締結・実行したシンジケートローンにより長期借入金が増加(短期借入金は減少)

※自己資本比率=自己資本/総資産 ※DEレシオ=有利子負債/自己資本



営業CF)税金等調整前四半期純利益6,189百万円、減価償却費2,923百万円

投資CF)水産新工場の建設に関する支出等

セグメント別業績



飼料事業は販売数量減少等により前年同期比減収も粗利拡大で増益。食品事業は相場高騰により増収も利益は前年並み

(百万円, %)

セグメント	2025.3期 3Q	3Q	2026.3期		
			増減額	前年同期比	通期予想 進捗率
畜産飼料	売上高	175,949	167,759	▲8,189	▲4.7%
	セグメント利益	5,977	7,063	+1,086	+18.2%
	EBITDA	7,870	9,100	+1,230	+15.6%
水産飼料	売上高	21,104	19,441	▲1,662	▲7.9%
	セグメント利益	976	1,307	+330	+33.9%
	EBITDA	1,351	1,737	+386	+28.6%
食品	売上高	28,456	31,860	+3,404	+12.0%
	セグメント利益	116	114	▲2	▲2.0%
	EBITDA	239	290	+50	+21.1%
その他/調整額	売上高	11	10	▲1	▲11.5%
	セグメント利益	▲2,341	▲2,335	+6	—

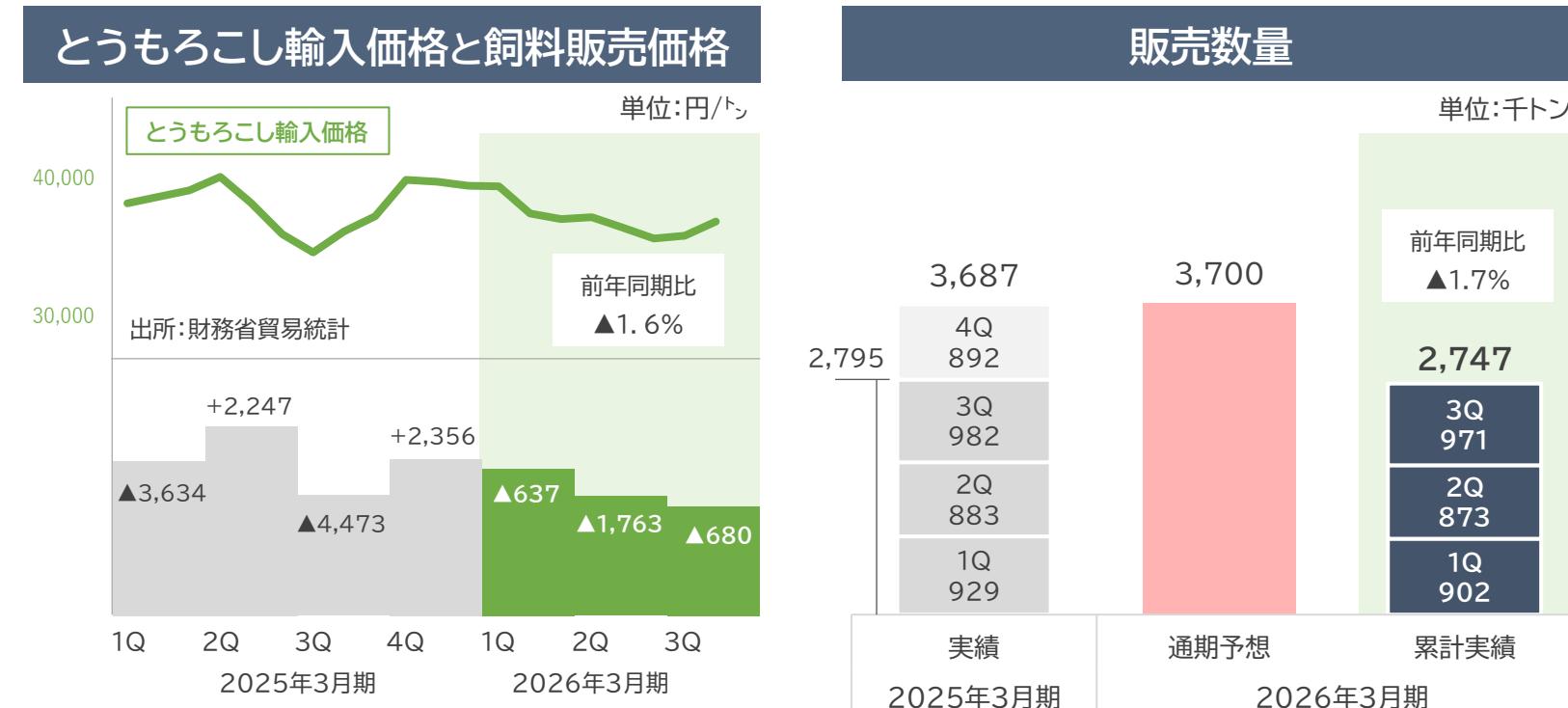
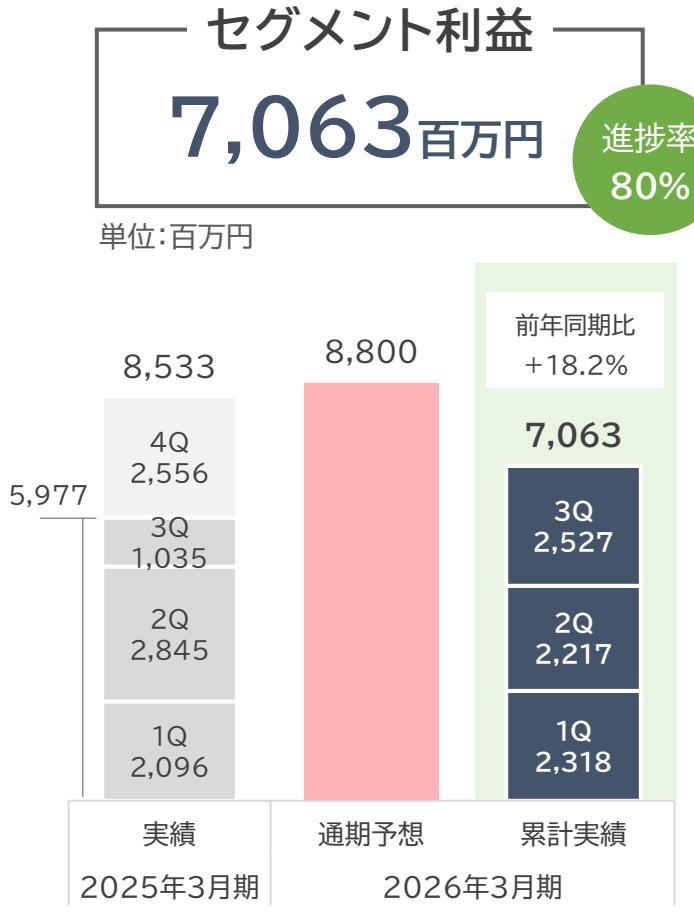
※セグメント利益:経常利益ベース

※EBITDA:経常利益+支払利息-受取利息+減価償却費及びのれん償却費

※その他=海外事業及び不動産賃貸事業等、調整額=報告セグメントに含まれない損益

セグメント別業績／畜産飼料事業

販売数量は前年同期を下回るも、採算管理の徹底(適正な販売価格の設定や不採算販売の見直し)により増益



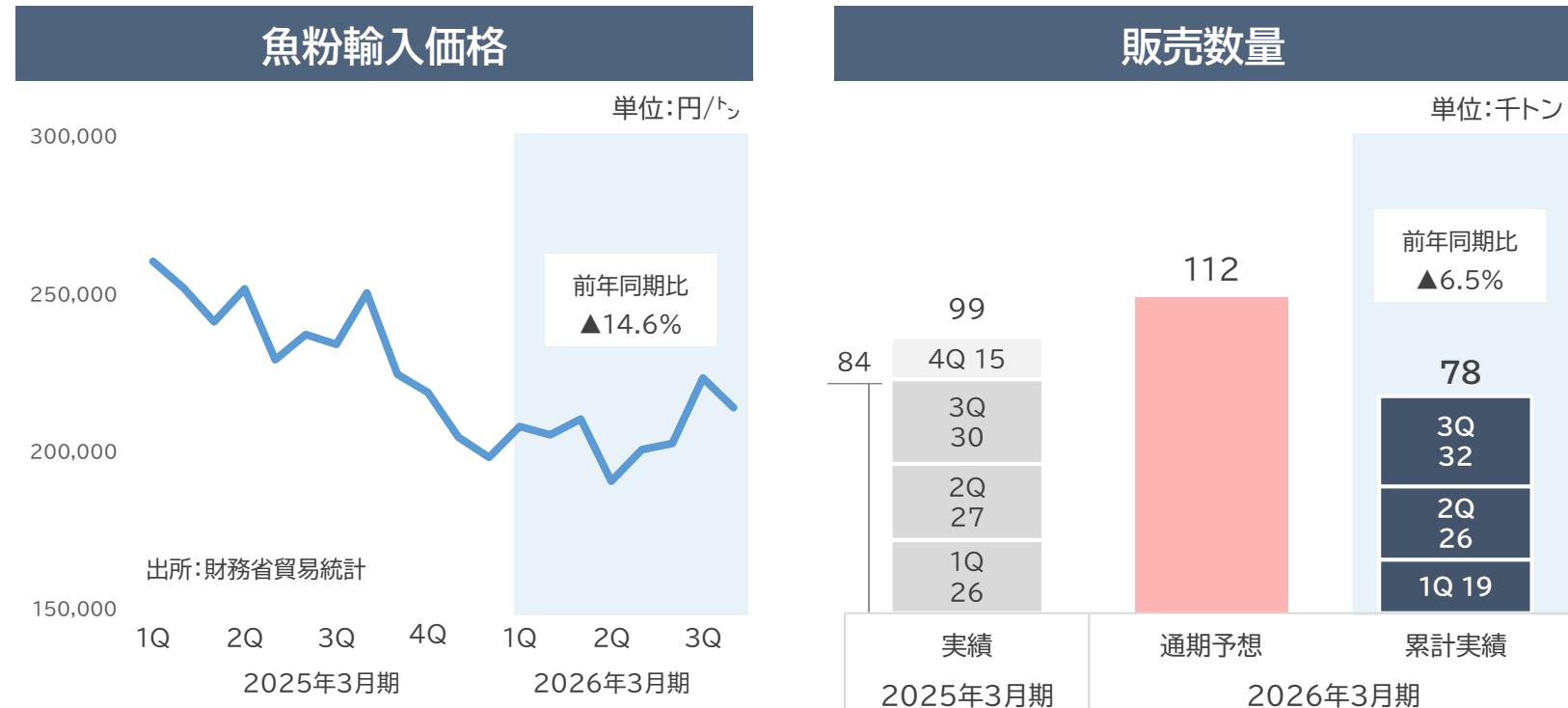
- セグメント利益(前年同期比+1,086):販売数量減少▲304、粗利増加+1,318、持分法損益の増加等+181 他
- 販売数量:気温の低下等により養豚・養牛飼料で回復基調も、鳥インフルエンザの発生等による養鶏飼料の需要減少や上期の環境要因(暑熱や家畜疾病による頭羽数減少)を受け、前年同期を下回り推移
(参考)全国の畜産飼料販売数量は前年同期比▲1.3% (当社調べ)

セグメント別業績／水産飼料事業

販売数量は回復基調も累計では前年同期を下回る。軟調な魚粉相場と採算管理の徹底(製造の効率化等)により増益



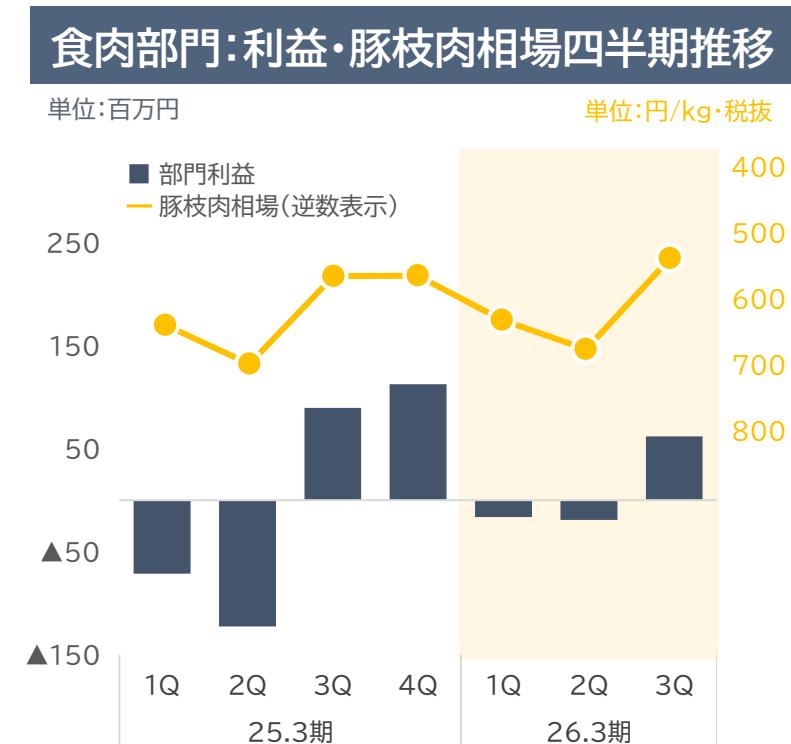
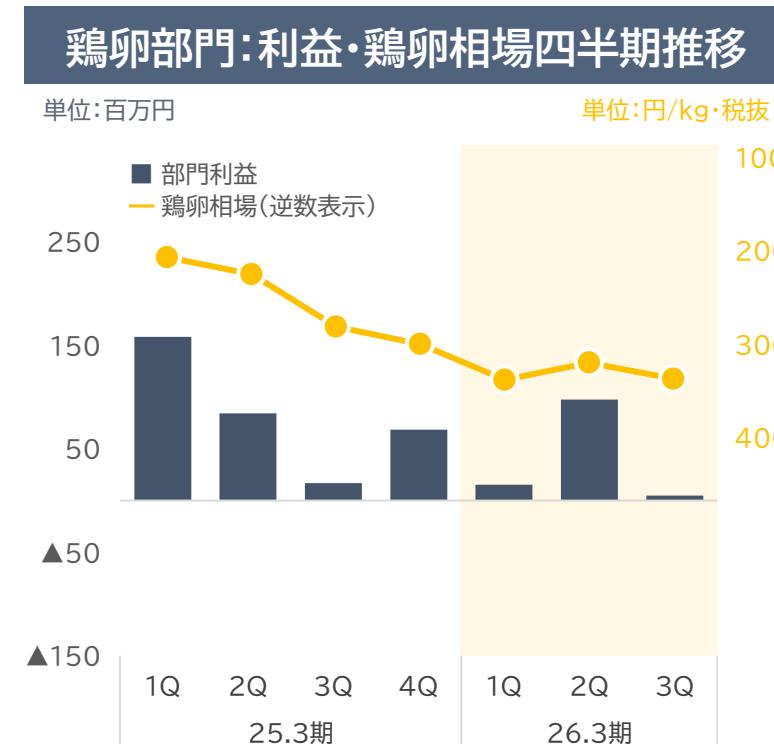
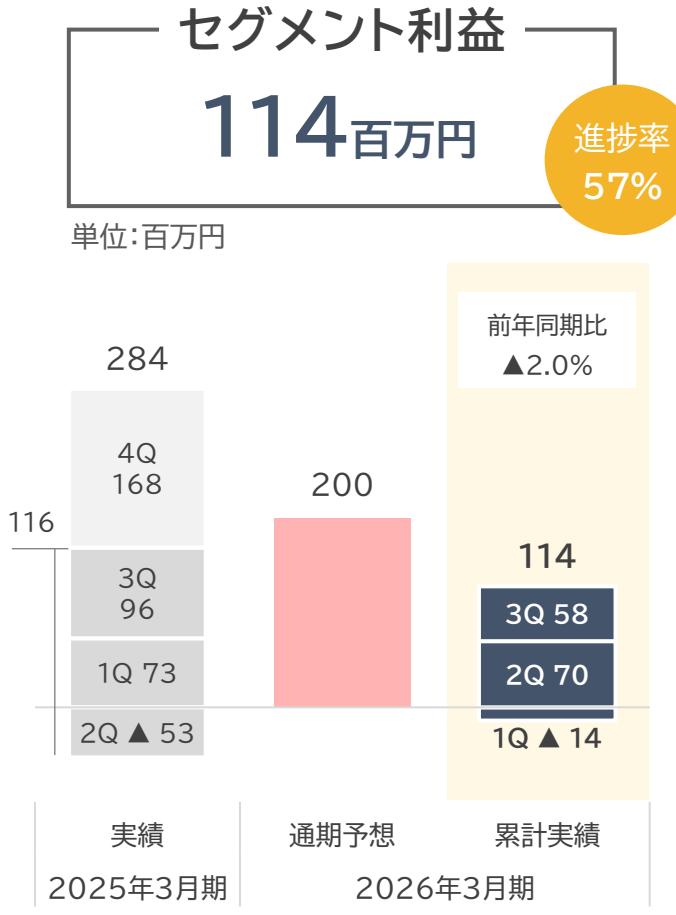
○ 前年同期対比(10-12月)
今期は企業養殖への拡販等により前期を上回る販売数量が寄与し増益



- セグメント利益(前年同期比+330):販売数量減少▲157、粗利増加+514 他
 - 販売数量:適水温化や当歳魚(今年導入された稚魚)の成長に加え、ブリ・カンパチ向けへの拡販により下期以降回復傾向も、高水温等による上期の減少分のカバーには至らず前年同期を下回り推移
- (参考)全国の水産飼料生産数量は前期比▲1.0% (当社調べ)

セグメント別業績／食品事業

鶏卵部門は相場高騰と償却負担増で前年同期比減益。食肉部門は採算改善と相場が低下に転じたことで増益



- 鶏卵部門)鶏卵相場は、猛暑や鳥インフルエンザの発生等により供給が逼迫し高値で推移。マジックパール新工場の減価償却費負担の増加(※①)もあり、前年同期比減益
- 食肉部門)収益構造改革(※②)に加え、豚枝肉相場が出荷頭数の回復に伴い8月以降は軟調に推移したことで黒字に転じ、前年同期比増益

各利益達成を見込む。4Q(1-3月)の畜産飼料価格は値上げも、売上高は未達の可能性あり

(百万円, %)

	2026.3期				
	期初予想 (5月8日開示)	3Q 実績	進捗率	直近予想 (1月30日開示)	期初予想比
売上高	311,000	219,072	70.4%	311,000	—
売上原価	277,200	193,932	—	277,200	—
売上総利益	33,800	25,139	74.4%	33,800	—
販管費	27,000	19,507	—	27,000	—
営業利益	6,800	5,632	82.8%	6,800	—
経常利益	7,000	6,149	87.9%	7,000	—
親会社株主に帰属する当期純利益	5,200	4,585	88.2%	5,200	—

通期予想



飼料事業は販売数量未達見込みも、採算改善が大きく寄与。相場高騰不安のある食品事業をカバーし、各利益は予想達成を見込む

畜産飼料事業



数量: 1-3月は前年同期比増を見込むも、通期は未達見込
利益: 1-3月も原料価格に応じた価格改定により、粗利を確保し予想達成を見込む

水産飼料事業



数量: 1-3月も前年同期比増を見込むも、通期は未達見込
利益: 1-3月は閑散期(※)であり利益率低下も、4-12月の収益が底支えし予想達成を見込む

※魚は変温動物のため低水温期は活性が落ちることから摂餌量が低下する

食品事業

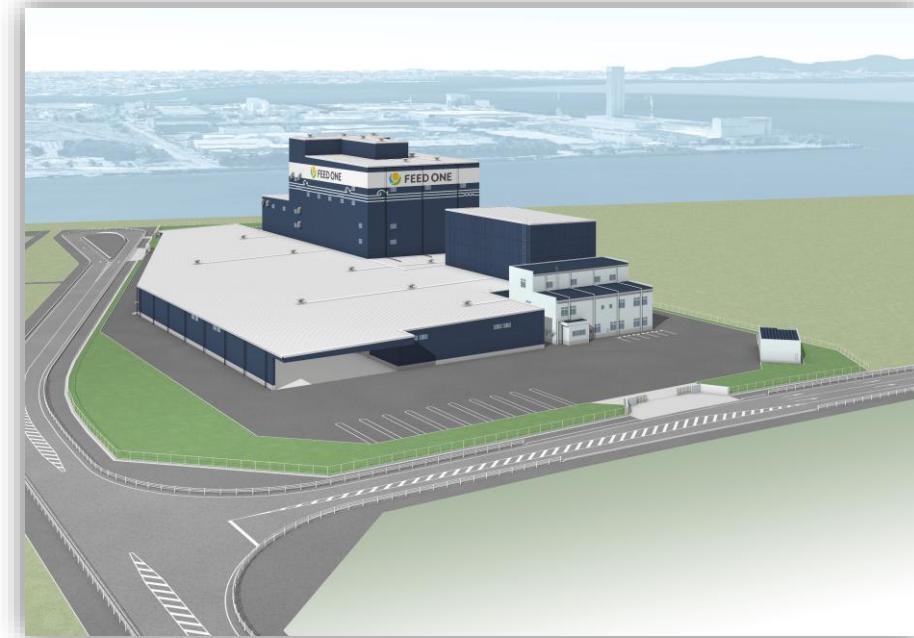


食肉部門は軟調な相場により安定した業績を見込む。
鶏卵部門は相場高騰により、厳しい収益環境が続く見込みも、食品事業全体としては通期予想達成を目指す

- 2025年10月に地鎮祭を執り行い、着工しております
- 2028年4月の竣工を予定しております（**当初予定より変更なし**）



建設予定地の様子



完成イメージ

工場建設に係るリリースはこちらをご参照ください

<https://pdf.irpocket.com/C2060/vAfC/AYj3/IX8R.pdf>

中間期決算説明会及び事業説明会

2025年11月18日 開催

- 競争優位性の観点で、競合他社との差別化のポイントはどこにあると考えていますか？

〔回答〕 製品力、技術力、人材力の3つです。この3つを連携させることで、当社は他社に先駆けて積極的にニーズを捉え、いち早く製品化を実現してきました。また、高い営業力と提案力を強化し、顧客の潜在的ニーズをいち早く発見し、それをフィードバックする仕組み、いわば継続的な技術革新を構築しています。

- 累進配当について、2027年3月期において記念配当分(5円/株)が減配になるわけではないという理解でよろしいでしょうか？

〔回答〕 今回変更した配当方針については、累進配当を基本とし、連結株主資本配当率(DOE)3パーセントを目標としています。来期以降も基本的にこのベースでの累進配当を続ける方針で、現時点では2027年3月期も42円を維持すべく取り組んでいます。

個人投資家向け会社説明会

2025年12月9日 開催

- 畜産飼料を使用している畜産業の現場はどのような状況でしょうか？

〔回答〕 生産者は減少していますが大規模化が進んでおり、畜産物の生産量は横ばい、もしくは増加しています。養鶏業は大規模化が顕著で、養豚業の大規模化も進んでいます。酪農関係は遅れていますが、こちらも日本にとって欠かせない畜産物ですので大規模化は進んでいくと思われます。

- 水産飼料事業の今後の展望と成長性について考えをお聞かせください。

〔回答〕 昨今のニュースでもよく取り上げられていますが、陸上養殖や沖合での大規模な養殖といった新たなビジネスが台頭しており、水産飼料事業は今後、大きな成長が期待されています。

IRカレンダー



2026年3月期									2027年3月期						
第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			第1四半期			
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
● 2025年3月期 決算発表			● 2026年3月期 第1四半期決算発表			● 2026年3月期 中間期決算発表			● 2026年3月期 第3四半期決算発表			● 2026年3月期 決算発表			
● 2025年3月期 決算説明会			● 企業調査レポート			● 2026年3月期 中間期決算説明会 及び事業説明会			● 企業調査レポート			● 有価証券報告書	●		
● 有価証券報告書					● 統合報告書							● 第12期定時株主総会	●		
● 第11期定時株主総会					● 中間配当基準日							● 期末配当基準日			
5/8 2025年3月期 通期決算発表	7/31 2026年3月期 第1四半期決算発表		10/1 統合報告書2025 発行			1/20 企業調査レポート									
5/20 2025年3月期 通期決算説明会	7/31 企業調査レポート		10/31 2026年3月期 中間期決算発表			1/30 2026年3月期 第3四半期決算発表									
6/17 有価証券報告書			11/18 2026年3月期 中間期 決算説明会及び事業説明会												

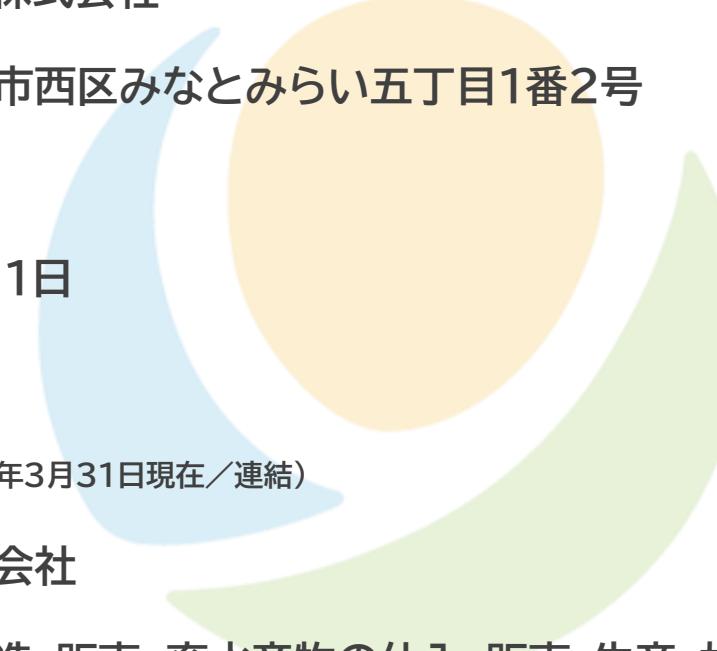
機関投資家様のIR面談のお申込みは ir@feed-one.co.jp にて受け付けております

※IRプラットフォーム「みんなの説明会(みんせつ)」でも受け付けております

參考資料



会 社 名	フィード・ワン株式会社
所 在 地	神奈川県横浜市西区みなとみらい五丁目1番2号
代 表	庄司 英洋
設 立	2014年10月1日
資 本 金	100億円
従 業 員	925名 (2025年3月31日現在／連結)
筆頭株主	三井物産株式会社
事 業	配合飼料の製造・販売、畜水産物の仕入・販売・生産・加工等 上記に付帯関連するその他事業(農場の経営指導、家畜診療施設の運営等)



代表取締役社長
庄司 英洋

PURPOSE(企業理念)

飼料で食の未来を創り、命を支え、笑顔を届ける

配合飼料の製造・販売から農場・食品まで事業領域とし、日本の「おいしさのみなもと」を創造しています

子会社 16社

● 飼料販売会社

北海道フィードワン販売(株)
道北協同飼料販売(株)
東北フィードワン販売(株)
鹿島フィードワン販売(株)
北九州フィードワン販売(株)
南九州フィードワン販売(株)

● 飼料製造会社

志布志飼料(株)

● 農場会社

(有)グリーンファームソーゴ
(株)第一原種農場
(株)南部ファーム

● 食品会社

マジックパール(株)
フィード・ワンフーズ(株)
(株)横浜ミート
ゴールドエッグ(株)

● その他

(有)いわき中央牧場
南洋漁業(株)

持分法適用会社 11社

● 飼料販売会社

(株)北海道サンフーズ

● 飼料製造会社

釧路飼料(株)
仙台飼料(株)
鹿島飼料(株)
平成飼料(株)
八代飼料(株)
マルイ飼料(株)

● 農場会社

(株)美保野ポーク

● その他

KYODO SOJITZ FEED COMPANY LIMITED
NIPPAI SHALIMAR FEEDS PRIVATE LIMITED
門司港サイロ(株)

畜産飼料事業セグメント

水産飼料事業セグメント

食品事業セグメント

その他セグメント

業績推移

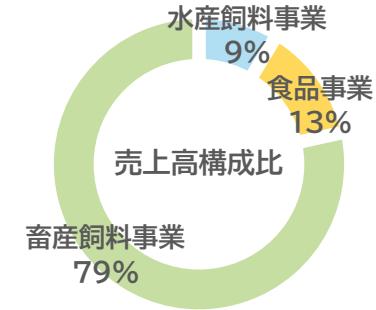
2025年3月期業績

売上高
2,960億円

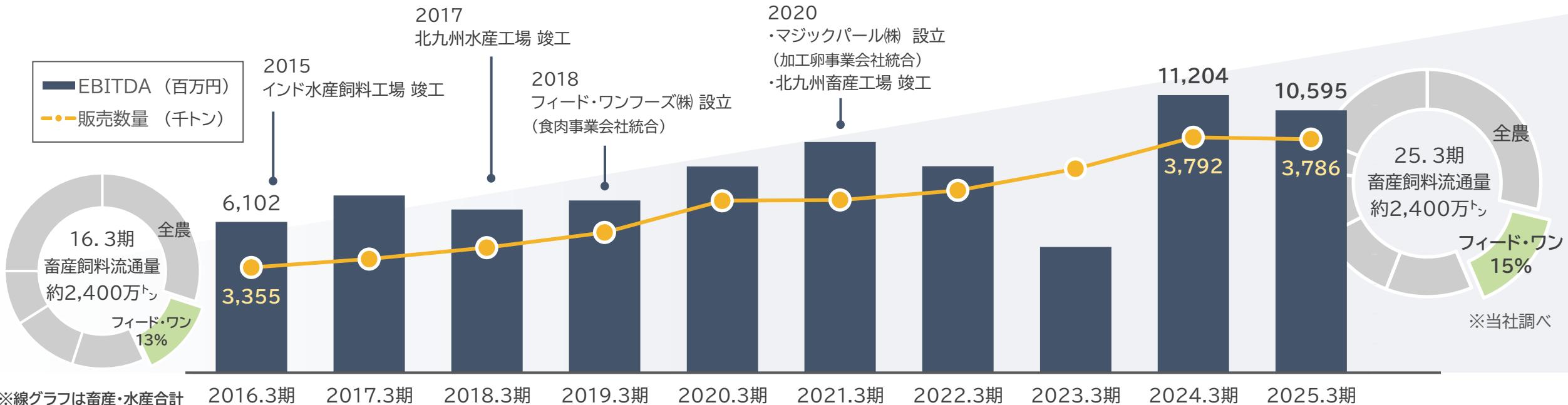
経常利益
67億円

販売数量
378万トン

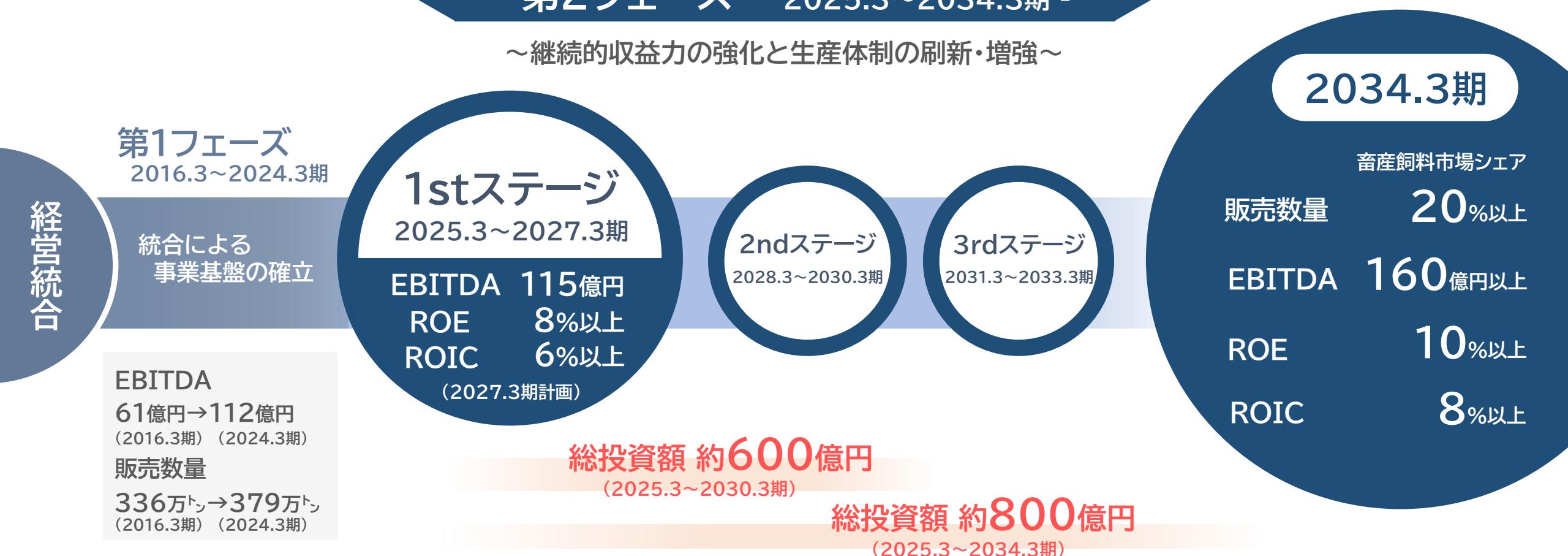
ROE
10.3%



主力事業は畜産飼料であり売上高の約8割を占めています
水産飼料は約1割に留まりますが、
市場規模の違い(畜産の約6分の1)
に起因しています



飼料の安定供給という使命のもと、社会の要請に応える製品を創出し、企業価値を向上します



■ 収益構造はコア事業である畜産飼料事業の影響が大きく、売上高は業績の指標とはなりません

【売上高】輸入原料価格の変動に応じ販売価格を見直し

- 畜産飼料は四半期に1度、輸入原料価格の変動に応じた販売価格の見直し(価格改定)が行われます
- 売上高は価格改定の影響を大きく受けるため業績の指標とはなりません

【売上原価】売上原価の大半を原料費が占める

- 配合飼料の売上原価の大半を原料費が占めています
- 原料費の8割以上が輸入原料となるため輸入原料の価格変動は売上原価に直結します

売上高

売上原価

販管費

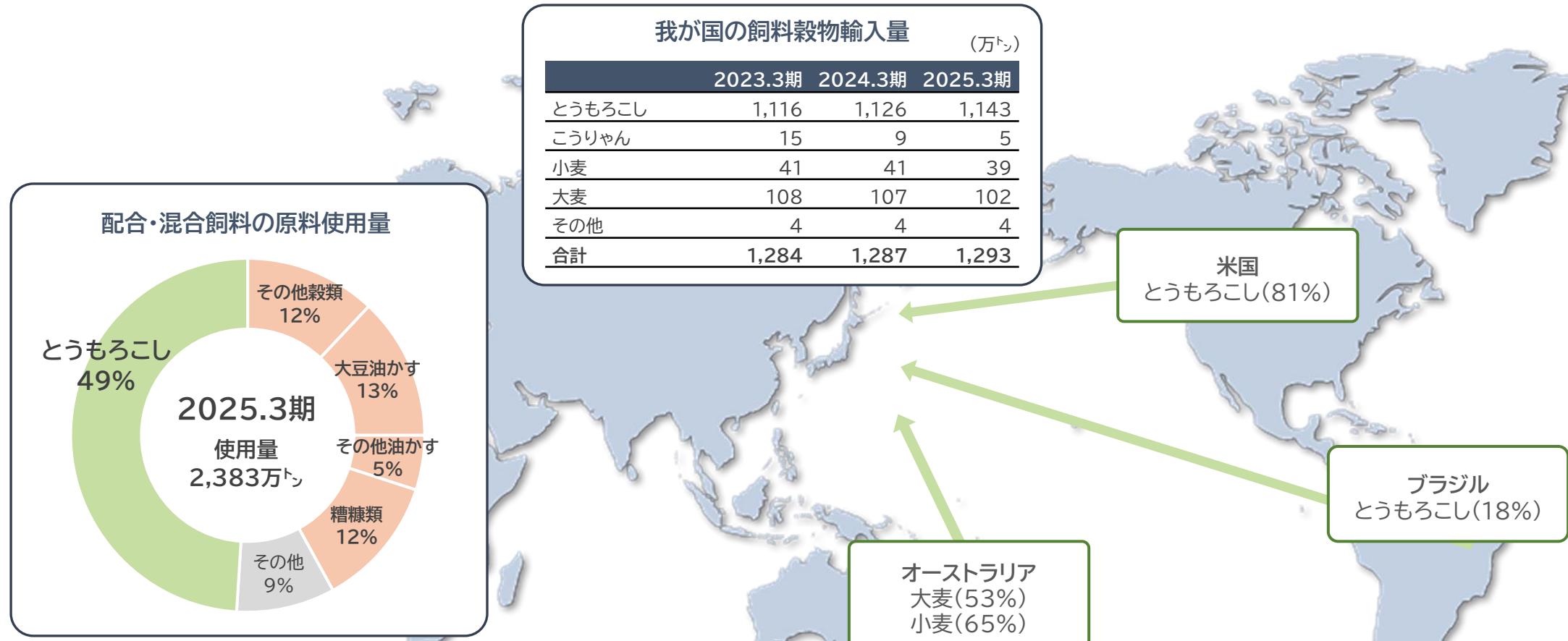
営業利益

畜産飼料事業は輸入原料の価格変動に応じ販売価格の改定を行うため、
一時的な変動はあるものの、利益は安定しています

【販管費】配合飼料価格安定制度積立金を計上

- 輸入原料価格の急激な価格上昇が畜産生産者の経営に及ぼす影響を緩和する制度です
- 国、メーカー、生産者が基金を積み立てており、条件を満たした際に生産者に補填金が拠出されます
- 積立金は税務上販管費への計上が認められており、2025年3月期は約66億円を計上しました

飼料穀物のほとんどは輸入に依存しており、特に、米国・オーストラリアに大きく依存しています



注:括弧内の%は2025.3期の輸入量の国別シェア

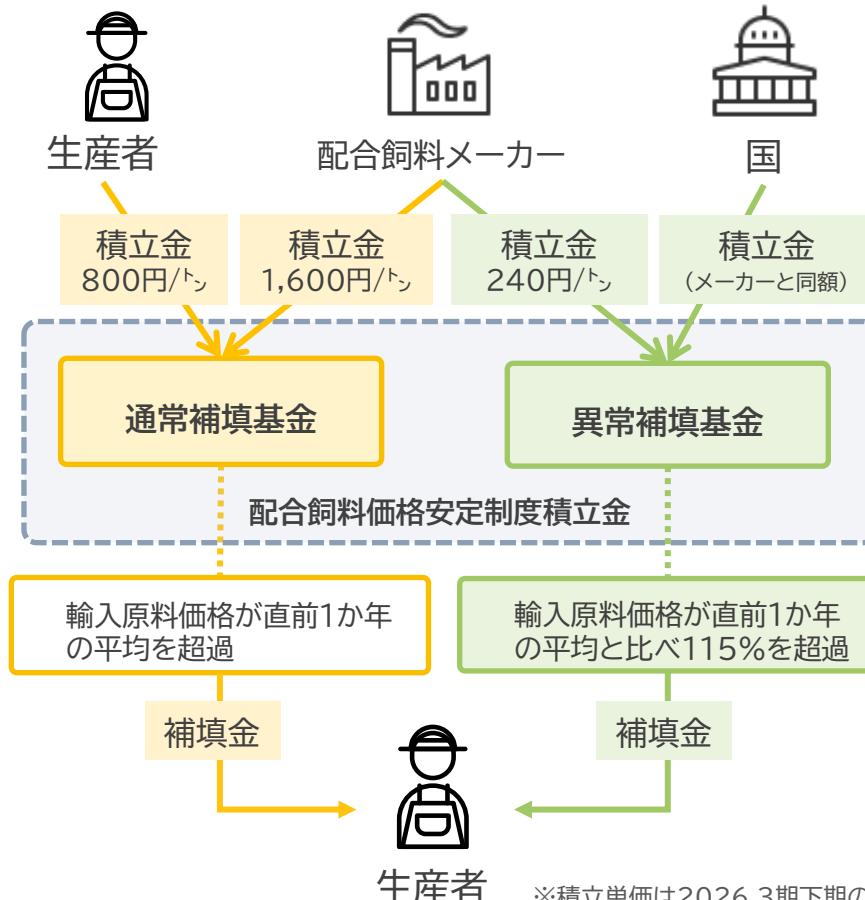
出典:農林水産省「畜産をめぐる情勢(令和7年12月)」

輸入原料の急激な価格上昇が畜産生産者の経営に及ぼす影響を緩和する制度です(※畜産飼料のみ)

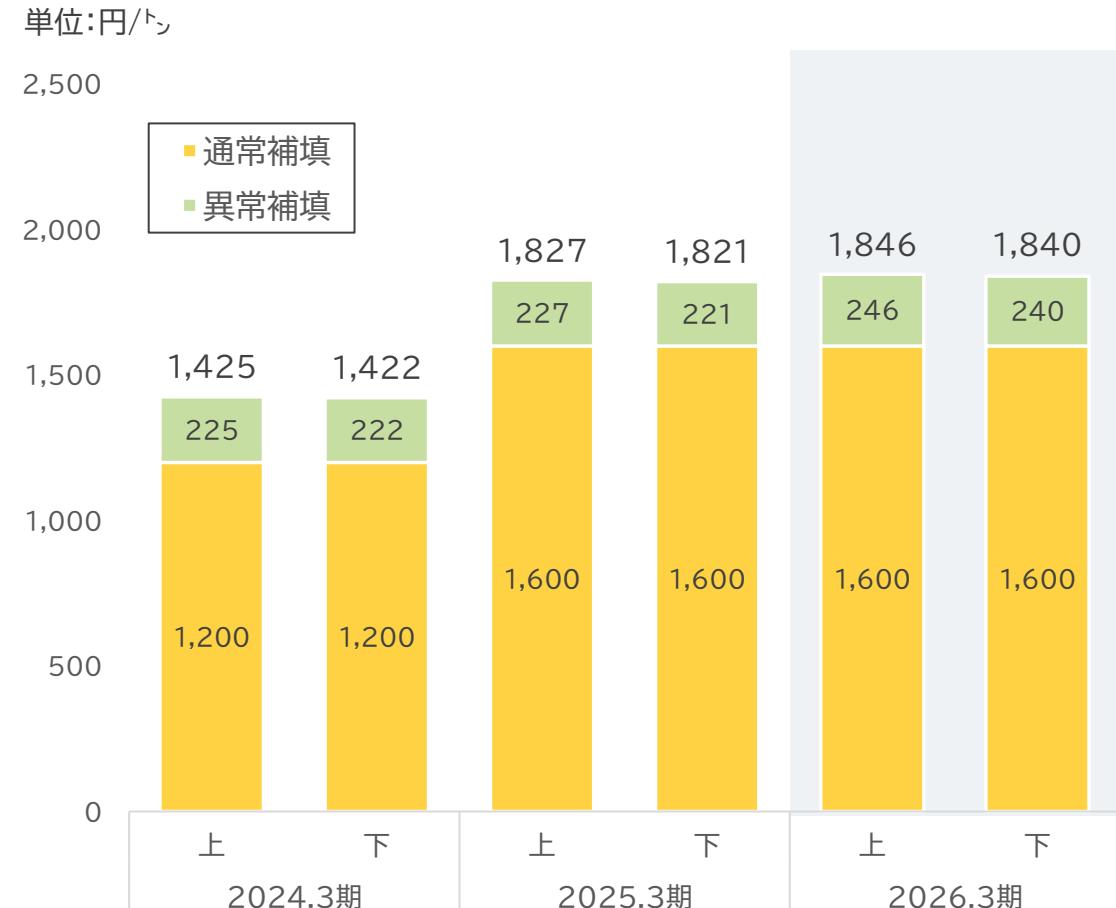


詳しくはこち
ら

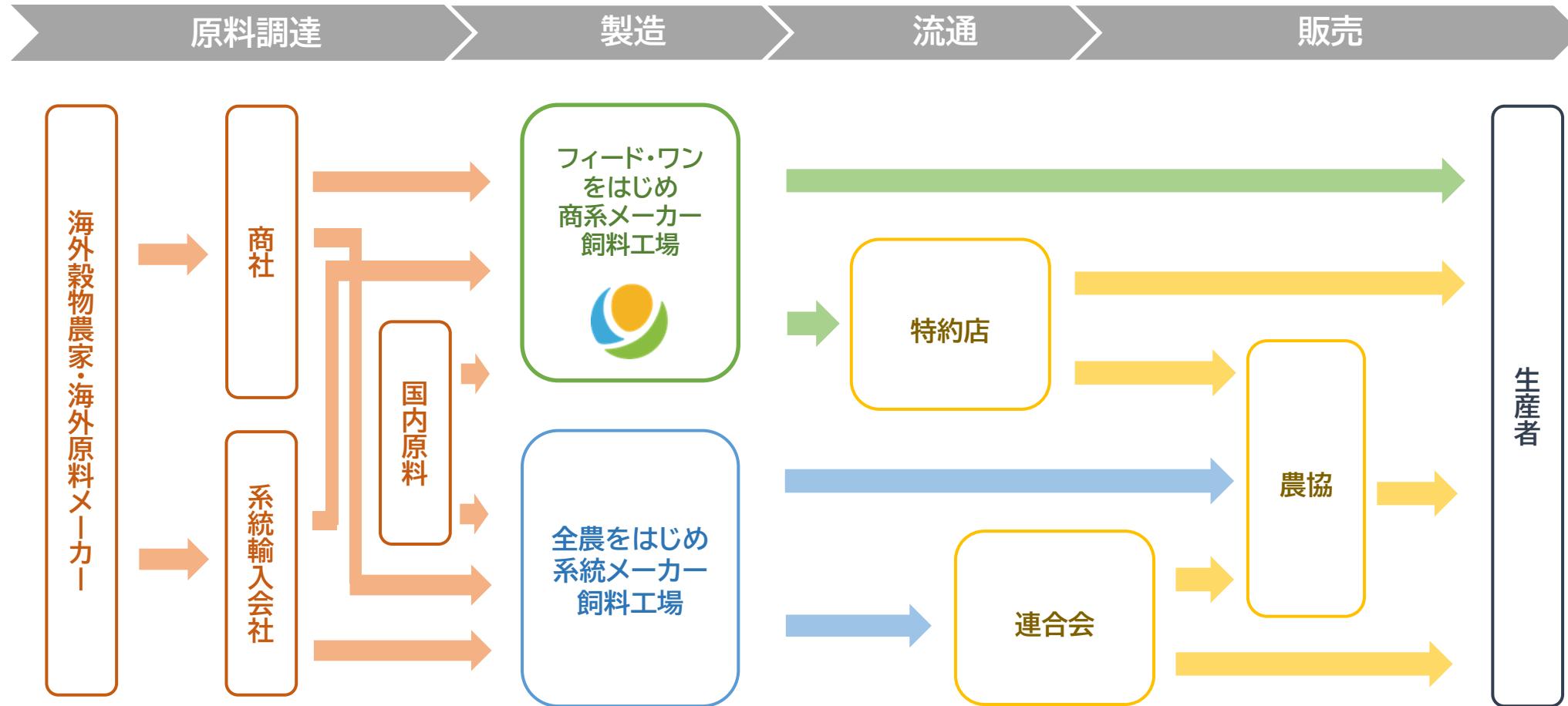
[制度の仕組み]



[積立金(配合飼料メーカー)]



飼料工場から生産者までの商流は、「メーカー直販」「特約店経由」「農協経由」等が存在します



株主還元方針と配当推移

設立以降一度も減配なし。2026年3月期より配当方針を見直し株主還元を強化しました

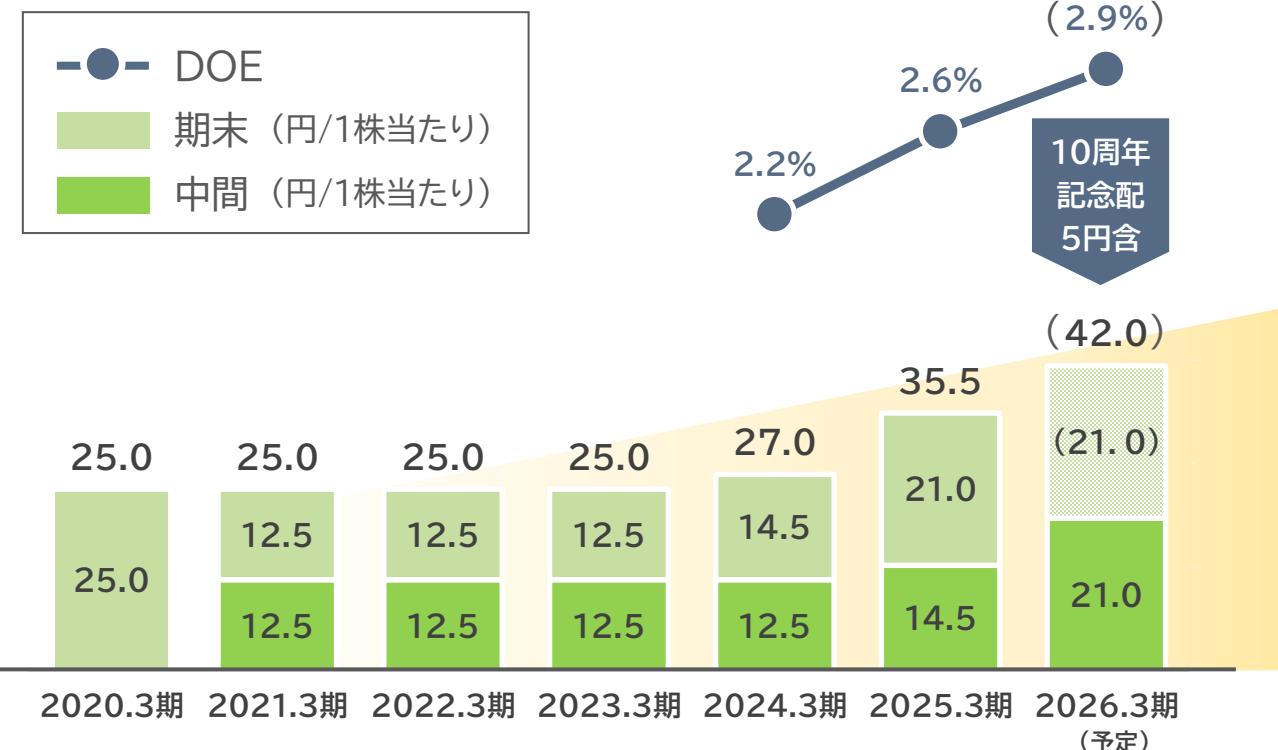
配当方針の変更 (2025年5月8日開示)

Before

長期的発展の礎となる財務体質強化のための内部留保の充実と**安定配当**を基本として、**連結配当性向25%以上**を目標といたします

After

長期的発展の礎となる財務体質強化のための内部留保の充実と**累進配当**を基本として、**連結株主資本配当率(DOE)3%**を目標といたします



※2020年10月に5:1の株式併合を行っているため、2020.3期と2021.3期は株式併合後に換算した金額となっております

参考情報 リンク先



フィード・ワン
IR情報 トップ



<https://www.feed-one.co.jp/ir/>

フィード・ワン
統合報告書2025



https://www.feed-one.co.jp/ir/integrated_report/

フィード・ワン
企業調査レポート



https://www.feed-one.co.jp/ir/sponsored_research_report/

本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、
その情報の正確性を保証するものではありません
また、様々な要因の変化により実際の業績や結果とは異なる可能性があることをご承知おき下さい

<IRに関するお問い合わせ>

おいしさのみなもと



財務経理部 IR・財務企画課

E-mail : ir@feed-one.co.jp

Webサイト : <https://www.feed-one.co.jp/>

